

---

## 理想的な災害教育研修・訓練

(山崎達枝：災害時のヘルスプロモーション、東京、荘道社、2010、8-16)

2014年6月20日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

非常事態発生の中、患者さんに安心感を与えられるように、落ち着いて行動に移すことができるためには、やはり平時に実践的な訓練を行っていたか否かである。

### 1 備えの行動化

各医療施設は災害対応マニュアルを単に作成で終わらしてはいけない。そのマニュアルで実際に訓練を行った後、浮き出た問題点を修正する。修正されたマニュアルで再度訓練を行うことで、各医療施設に適したマニュアルが作られていく。

### 2 医療施設における災害発生時の活動内容

災害発生時、日常の診療から災害時医療へ変えなければならない。まずは施設内の人間の安全確保と安否確認をし、在院者の応急処置を行って、避難誘導をする。次に情報や資材を得て、司令塔を形成し、伝達や復旧活動をスムーズに行う。

### 3 災害時医療活動に求められる能力

災害サイクルからみたニーズと資源及び支援体制の全体を見渡して、災害の種類とその特徴的な疾患を瞬時に判断し、その対策を考えなければならない。そのためには、災害医療に強いリーダーとなる人材とともに、減災に向けて活動できるスタッフのフォローアップが大切である。

### 4 平時の訓練の必要性

より実践に即した訓練を行って評価・修正をしていくことが大切である。適材適所型訓練や全員参加型訓練を行うことで、減災に向けての組織目標達成につながると考える。

### 5 実践的な災害医療教育

以下のような手順によるプログラム構成が効果的である。

①講義による基本的知識の習得や、体験者の講話によるイメージの構築をまず行う。グループディスカッションを取り入れることで自主性を育てることができる。

②①の後、シミュレーションで、職種の役割が災害時の医療活動にどう結びついているか理解させる。

上の2点による意見交換で、小さな個から大きな協働の集団に広がる。

③最後に実践的な総合訓練を行う。シナリオに基づいた訓練、情報提供型訓練、抜き打ち訓練がある。

### 6 海外での防災訓練の活動

グローバルにみても、前述の訓練法が段階的に行われていた。

### 7 小規模な訓練の積み重ね

研修・訓練の目的及び達成目標をしるさないと、研修・訓練を受けただけになる危険性がある。